

機微な情報を安全・安心に利活用できる 「従業員健康管理クラウドサービス」 「ストレスチェックサービス」

医療、ヘルスケア分野でもデータの利活用への期待が高まっています。しかし、その現場で扱われるデータには、機微な個人情報が数多く含まれています。そこで日立は、セキュリティ強化と情報の利活用を両立する「匿名バンク」をベースとした各種ソリューションの提供を始めています。今回は、従業員の心身の健康を守り、企業活力を増進させる従業員健康管理ソリューションを例にご紹介します。

パーソナルデータを クラウドでセキュアに利活用

マイナンバー制度の施行やストレスチェック制度の義務づけなどを受け、従業員の個人情報は企業にとって、より厳格で適正な管理を求められるデータとなりました。その取り扱いにあたっては、従来以上のセキュリティ強化策とプライバシー保護策が求められていますが、その一方で、個人情報保護に配慮しつつも、個人のQoL^{*1}や業務効率の向上支援、職場の環境改善に向けたデータの利活用への期待は高まっています。

日立は、個人情報を取り扱う業務やサービスを安全・安心に実現したいというお客さま向けに、秘匿情報管理サービス「匿名バンク」を提供しています。匿名バンクは、個人特定情報(氏名・生年月日・マイナンバーなど個人を識別できる情報)を検索可能暗号化技術^{*2}で暗号化して保管する検索可能暗号化情報管理サービスと、機微情報を匿名化して保管する匿名化情報管理サービスで構成されています。

今回、検索可能暗号化情報管理サービスの能力向上を図り、企業や組織の人事情報などもクラウドに預けることが可能となりました。これにより、フルクラウドによる従業員の健康管理や、マイナンバーの安全な保管、高セキュリティが要求される医

療・臨床研究情報の共有・公開など、幅広い用途で活用することができるようになりました。

※1 Quality of Life
※2 暗号化したままデータ検索を可能にする技術

個人情報管理に配慮した 「従業員健康管理クラウドサービス」

匿名バンクの技術をベースに提供しているのが、企業の定期健診や特殊健診業務をサポートし、産業医や保健師が行っている煩雑な業務負担を軽減する「従業員健康管理クラウドサービス」です。

本サービスは、人事情報や健康診断結果、面談履歴などの情報入力・管理を一元化するほか、対象者の抽出、面談日程の通知、帳票出力まで、そのほとんどを支援することができます。これにより産業医や保健師は、従業員の健康管理というコア業務に集中することが可能となるうえ、クラウドサービスであるため複数拠点での均一な健康管理も実現します。さらに、匿名バンクの機能をベースとしているため、データにアクセスする人ごとに許可されたデータの使い方を“仕組み”として担保できており、セキュリティ監査やデータ管理コンプライアンスへの対応が可能です。

また、お客さま特有の業務にはカスタマイズで対応できるので、お客さまの運用に柔軟に合わせることが可能です。例えば特殊健診は、企業や業務ごとに

必要な受診内容が異なりますが、従業員健康管理クラウドサービスは、導入時にお客さまの業務内容に合わせて対応します。

なお、日立グループではすでに9万人規模での導入実績と複数拠点での運用ノウハウの蓄積があります。

制度対応を支援する 「ストレスチェックサービス」

2015年12月、産業医や保健師が従業員の心理的な負担の程度を把握するための検査「ストレスチェック制度」が義務づけられました。この制度に基づく業務を支援するのが「ストレスチェックサービス」です。

本サービスは、ストレスチェックの実施や面接指導、チェック結果の集計・分析など、ストレスチェック制度に基づく一連の業務をクラウドサービスで支援します。産業医や保健師、人事部門の事務作業の増加を抑制し、より専門的な業務へ専念できる環境を提供。クラウドならではの迅速性と柔軟性を生かし、スピーディーな業務立ち上げが可能です。

問診項目には、厚生労働省が推奨する質問57項目のほか独自の質問も追加できます。また、ストレスチェック制度では年1回のストレスチェックの実施が定められていますが、本サービスでは大規模組織変更など職場環境の変化のたびに、

同一年度内に何度でもストレスチェックを実施できます。

ストレスチェックサービスは、従業員健康管理クラウドサービスのオプション機能としても利用可能で、健診管理、面接管理、就業制限管理などの基本機能と組み合わせることにより、心と体の両面から従業員の健康を管理でき、従業員のパフォーマンス向上や組織の活性化による企業力アップにも貢献します。

なお、日立グループではストレスチェック制度の施行にあわせ、現在までに約4万人の導入実績があるほか、複数のお客さま企業でもサービス提供を開始しています。

セキュリティ強化と情報の利活用を両立した業務システム構築

従業員健康管理クラウド・ストレスチェックサービスは、匿名バンクを適用し、セキュリティマネジメントを日立クラウドサービスが担うことで、お客さまはコア業務に注力できるとともに、データの利活用に簡便に取り組みることができます。

匿名バンクでは、多様な業務システムとの連携を可能とする共通API^{※3}を提供し、共通性の高い機能は、共通APIと連携するアプリケーションとして準備しています。また、構築時にはOSS^{※4}として提供されているIT部品群と組み合わせることで、少ない開発工数で必要な業務

サービスをスピーディーに構築できます。

データ利活用の観点からは、データ解析時に求められる匿名化をデータ登録時から実現しています。基盤機能として、複数の業務システムで安全にデータの共有・一元管理を想定した設計しており、グループ会社間でのベンチマークや公的機関による調査協力などで、より安全にデータの利活用を行うことができます。

データ利活用をさらに加速させるため、これからも日立はクラウドサービスの技術と運用力による安全・安心な基盤運用と、情報利活用の両立を実現していきます。

※3 Application Programming Interface
 ※4 Open Source Software

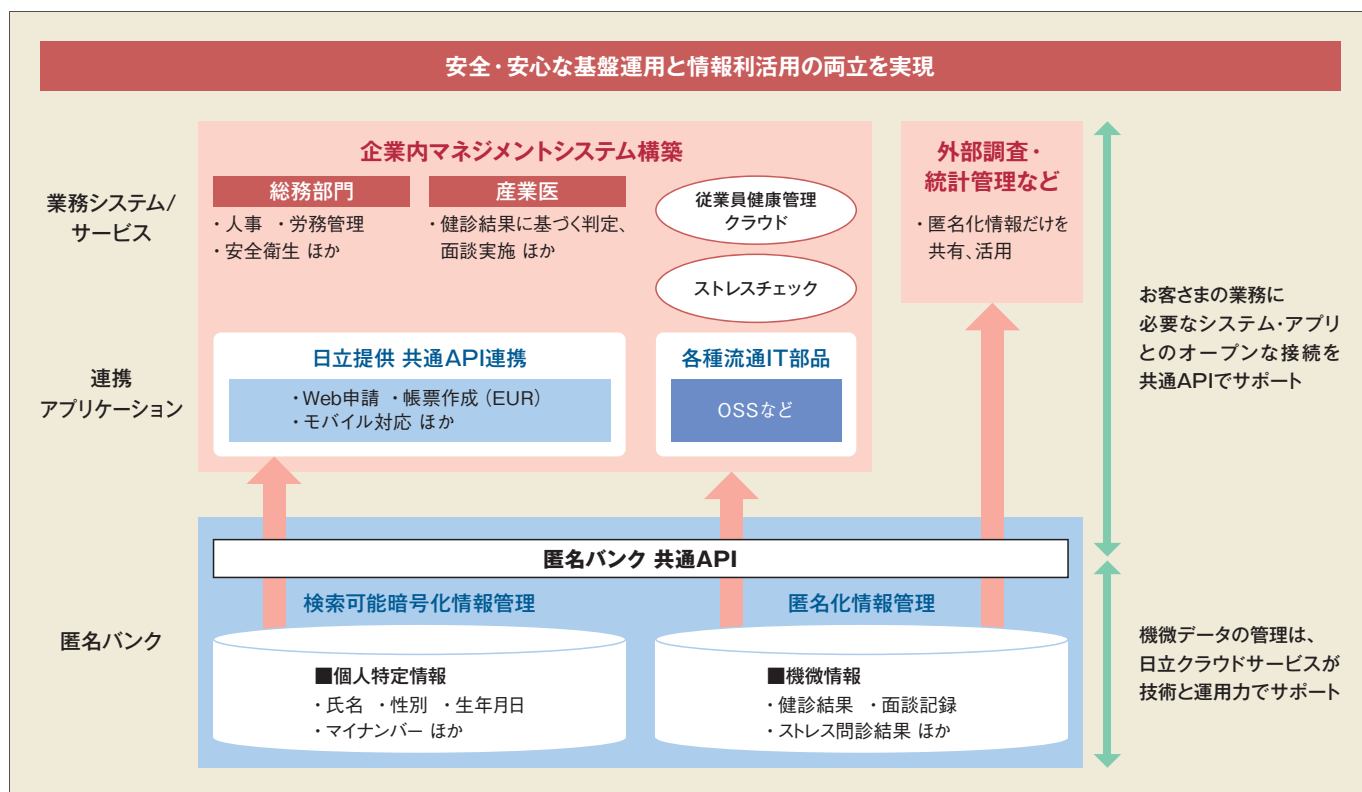


図 匿名バンクを活用した業務システム構築の概要

お問い合わせ先

(株)日立製作所 スマート情報システム統括本部
<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/it/healthcare-it/form.jsp>

■ 情報提供サイト
<http://www.hitachi.co.jp/ehealthcare-cloud/>
<http://www.hitachi.co.jp/tokumeibank/>